



# 沢池小だより

令和3年度 7月号  
No.3(R3年(2021年)6.30)  
[発行]明石市立沢池小学校

「コロナ」、「熱中症」 両にらみの夏、始まる

校長 福本 悟

7月、今年もまた暑い季節が到来しました。子どもたちが毎日水やりを忘れず大切に育てているアサガオが花をつけ始め、ミニトマトやピーマンなども結実してきました。いよいよ夏本番です。



ミニトマト

7～9月は猛暑日や熱帯夜が連続し、地域によっては気温40度超を計測することすらあります。「危険な暑さ」が日本の夏の日常になってきています。暑くなると心配されるのが「熱中症」です。

教室にはエアコンが完備されていますが、強烈な日射とコロナ対策のための常時換気により、エアコンの効果が十分に得られないことがあります。また、登下校時間帯でもかなり気温が高くなってきています。「暑熱順化」といって徐々に暑さを体に慣れさせることも有効とされていますが、熱中症は命さえ奪いかねない恐ろしいものです。コロナ対策に優先して熱中症対策を行うよう文部科学省、厚生労働省も推奨しており、本校でも、マスクの常時着用が原則ではあるものの、高温時や運動時などはマスクを外し、距離をできるだけ取るといったコロナ・熱中症対策を行います。ご家庭におかれましても、登校前に子どもさんにコップ1杯程度の水分補給をお願いいたします。また、睡眠不足も熱中症やコロナ感染の大敵だそうです。ゲームや動画視聴など子どもたちにとって魅力的なものが多いですが、十分な睡眠がとれますよう、お子さまにお声掛けいただけましたら幸いです。

これから厳しい暑さがやってきます。皆様、熱中症にも十分ご注意ください。



子どもたちがこの地域の小さな自然の出来事に目や耳を傾けて、その声を聴き、少し心を動かすような豊かな体験をしてほしいと願って、校内の自然を紹介しています。

今回は、中庭の池周りです。左の写真はスイレン(睡蓮)です。フランスの画家モネの絵の題材としても有名ですね。よく比較されるのがハス(蓮)です。ハスの根はご存じレンコンですが、このスイレンの根はワサビのような根です。池にはたくさんのメダカが泳いでいますが、写真に写りませんでした。そのかわり、スイレンの葉で休むイトトンボを見つけました。3センチ程度の小さなトンボです。小さくてもトンボはトンボ。トンボは優れた飛翔能力で虫を捕食します。また前にしか進まず退かないところから「不退転の精神」を表す「勝ち虫」とも呼ばれたので、武将に好まれました。



本校の校章「オモダカ」のように、困難な条件に打ち勝つ力強さと、トンボのようにひるむことなく前に進む力を子どもたちに育てていきたいと思えます。



最後になりましたが、この中庭は昭和56年開校時に、鳥羽財産区のご開校記念庭園の文字が見えます。厚意により設置された庭園です。これからも大切にしていきたいと思います。ありがとうございました。